



2015年10月

「岩手県環境保健研究センター」では、県民のみなさんの健康といわての環境を守るため、健康・環境に関する科学的・技術的拠点として、次のような業務に取り組んでいます。

- ① 県民のみなさんの健康や環境に被害のおそれがある場合の対応
- ② 健康と環境を守るための試験検査・監視測定
- ③ 行政の課題に対応した調査研究
- ④ 技術支援・情報発信・研修指導

広報誌「環保研聞録 ~I-RIEP Journal~」では「環保研(かんぼけん)センター」の取組や健康・環境に関する情報を定期的にお届けしています。

## 「夏休み子ども講座」を開催しました！

岩手県環境保健研究センターでは毎年、夏休みの小学生を対象に『夏休み子ども講座～実験で不思議な世界を体験しよう～』という名称で科学講座を開催しております。今年は7月30日に盛岡市、紫波町及び矢巾町の計15小学校から5・6年生52名が参加し、当センターの研究員と共に実験に取り組みました。

参加者は、野菜やジュースからDNAを取り出す「DNAの取り出しに挑戦！」、酸化防止剤のは

たらきを実験する「果物を酸化から守ろう！」、食塩を用いた寒剤や過冷却を実験する「冷凍庫を使わなくてもアイスがつかれる?!」、音の振動を模様にする「どんな模様ができるかな?!」、重曹のはたらきを実験する「夏まつりで大実験！」の5つのグループに分かれ、科学の世界に目を輝かせながら実験に取り組んでいました。



## 食物アレルギーの検査を実施しています！ (衛生科学部)

近年、食物アレルギーの症状を起こす人が増え、重篤なショック症状により死に至る場合も見受けられます。アレルギー物質を含む食品については、健康被害を防止するため、その表示が制度化されています。

「卵・乳・小麦・そば・落花生・えび・かに(特定原材料)」の7品目は必ず表示し、消費者にアレルギー物質に関する情報を提供することが法律で義務化されています。また、イクラ等 20 品

目が特定原材料に準ずるものとして表示が奨励されています。

衛生科学部では、県内で製造されている食品について、症例数や重篤な症状を起こすことが多い「そば」、「小麦」の混入の有無を検査しています。

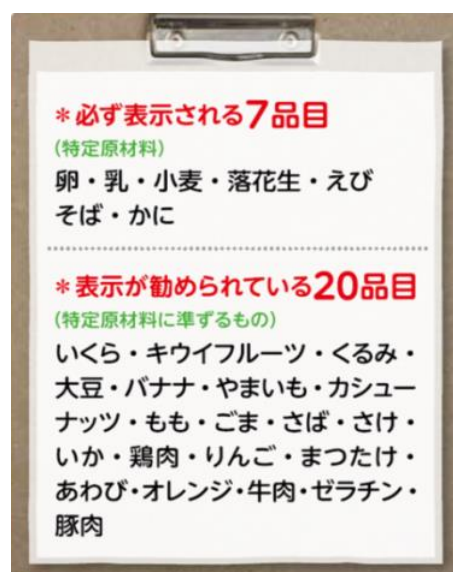
陽性を示した検体で製品に表示がない場合、保健所は製造業者に対してアレルギー物質に係る表示を適正に実施するよう指導を行います。

### 最近5か年の検査結果

食品	特定原材料	23年度		24年度		25年度		26年度		27年度	
		検体数	陽性	検体数	陽性	検体数	陽性	検体数	陽性	検体数	陽性
小麦粉製品	そば	13	1	15	3 (3)*	16	4 (1)*	15	0	14	1
		5	0	3	1 (1)*	4	1 (1)*	5	0	6	2
米粉製品	小麦										

(\*)\*: 保健所から製造業者に対し改善指導実施

### 検査の方法



## 韓国水産科学院の方とノロウイルス対策に係る意見交換を実施 (保健科学部)

平成 27 年 7 月 29 日、韓国におけるカキの安全性を向上させる目的で、韓国でカキ生産海域の衛生管理を担当している国立水産科学院南西海水産研究所オウ (Oh, Eun-gyoung) 海洋水産研究官とキム (Kim, Yeon-kye) 海洋水産研究士、同食品安全課パク (Park, Kunbawui) 海洋水産研究士の3名が当センターを訪問され、当センターが実施した「カキと河川等の水質とノロウイルス汚染の関係に係る研究」に係る研究を中心に、

カキのノロウイルス対策について、日韓双方の現状報告や意見交換を行いました。

文献を韓国国内でインターネット検索され、当方の学会抄録がヒットしたことで訪問が実現したものです。

当日は、この研究を担当した現岩手県食肉衛生検査所・高橋知子上席獣医師を迎え、研究の詳細な内容や研究成果の活用法について、活発に意見交換を行いました。



カキのノロウイルス対策について、活発に意見交換を行いました



(右から) 佐藤上席専研、キム先生、オウ先生、高橋上席獣医師、パク先生、小野部長



## アサガオで知る光化学オキシダント（地球科学部）

今年度、国立環境研究所、地方環境研究所との共同研究「植物の環境ストレス診断法の確立と高度化に関する研究」に参加し、アサガオを用いて、光化学オキシダントによる植物被害について調査しました。

光化学オキシダントは、近年全国的に問題となっている大気汚染物質で、人体や植物に影響を与えます。そこで光化学オキシダントに対して敏感なアサガオを種子から育て、オキシダントの濃度推移と葉を観察することで、盛岡市における大気汚染の状況を調べることにしました。

アサガオは、光化学オキシダント中のオゾンに対して敏感で、吸収すると葉の細胞が破壊され、葉緑素が流出し表面に白い斑点が現れます。また、

被害が激しいと葉っぱ全体が葉脈を残して白色になり、さらに被害が進行すると褐色になり葉が落ちてしまいます。

当センターの敷地内において、5月末から7月末まで調査を実施した結果、下の写真のとおり、白い斑点が現れた葉は数枚ありましたが、光化学オキシダントによるアサガオへの大きな被害（変色、落葉）は認められませんでした。

これは被害が起こりやすいと言われるオキシダント濃度、最高濃度 80ppb 以上を記録した日になかったからと推察されます。

しかし、オキシダントや酸性雨の原因となる大気汚染物質は、少なからず存在しますので、今後も引き続き監視していきます。



無被害葉と開花の様子



被害葉（白い斑点）

### 【光化学オキシダントとは？】

光化学オキシダントとは、工場や自動車から排出された窒素酸化物や炭化水素等が、太陽光線の中の紫外線により光化学反応を起こして発生すると言われております（オゾンが主成分）。

光化学オキシダントは、一般的には春から夏にかけて、気温が高く、日差しが強く、風があまりないような日に多く発生します。



（環境省 HP「環境教育・環境学習データベース」から）

## 新人保健師研修会、特定保健指導従事者スキルアップ研修会を開催（保健科学部）

健康づくり担当の地域保健グループでは、各種研修会を開催しています。

### 《平成 27 年度 第 1 回新人保健師研修会》

8月24日（月）10時～16時（岩手県民会館会議室）

【目的】県内の市町村や保健所で働く新人保健師が、必要な知識・技術の習得を図るとともに、健康支援活動の円滑な推進を図る

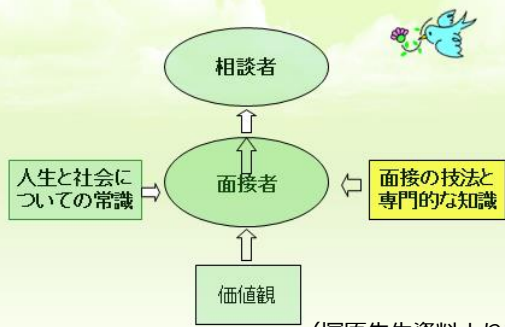
【実施主体】岩手県保健福祉部健康国保課、岩手県環境保健研究センター

【対象】今年度採用又は採用後3年未満の新任期保健師（45名参加）

【講師】元杏林大学保健学部看護学科教授 塚原 洋子 先生

【内容】講義「良い記録を書くために」「保健活動における面接技法」  
実習「面接技法のロールプレイ」

対人援助における知識・技術・価値観



（塚原先生資料より）

- 新人保健師 45 名が熱心に受講しました。
- 「客観性と根拠を持った記録について学ぶことができた」など、好評でした。



### 《平成 27 年度 特定保健指導従事者スキルアップ研修会》

9月1日（火）10時～16時（当センター大会議室）

【目的】特定保健指導従事者のスキルアップを目指し、専門的な知識・技術の習得を図る。

【実施主体】岩手県保健福祉部健康国保課、岩手県環境保健研究センター

【対象】国のガイドラインに基づく実践者育成研修の基礎編及び技術編を終了した者で、実際に特定健診・特定保健指導に従事している者等

【講師】尼崎市ヘルスアップ戦略担当部長（大阪大学准教授）野口 緑 先生（写真）

【内容】講演演習「生活習慣病の重症化予防策と戦略的保健指導事業の展開」

- 県内各医療保険者及び保健所等の保健指導担当者 83 名が参加しました。
- 「データの読取りや健康課題を明確にすることの重要性が理解できた」「データに基づき、優先順位をつけ事業を取組んでいきたい」等、の声が聞かれ、大変好評な研修会でした。

### 【編集後記】

秋です。食欲の秋、芸術の秋、読書の秋、スポーツの秋・・・。  
そして、秋といえば、衣替え。クールビズともしばらくお別れです。

この機関誌も、より皆様に分かりやすくお伝えするために文字やレイアウトを「衣替え」してみました。

これからも、広報誌「環保研聞録～I-RIEP Journal～」を通して、今まで以上に環保研センターを「分かりやすく」お伝えします。（あ）

《編集・発行》岩手県環境保健研究センター 企画情報部

盛岡市北飯岡一丁目 11-16

TEL 019-656-5666 FAX 019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

ホームページ <http://www.pref.iwate.jp/kanhoken/>

